
[成果情報名] 平坦隔離茶園における有機栽培へ移行期間中の病虫害防除体系

[要約] 一・二番茶において、殺菌剤は散布回数に制限のない剤を2～4週間ごとに、殺虫剤は対象害虫発生初期や幼虫期に散布し、整せん枝、すそ刈りなどの耕種的防除をすることで、せん有機栽培へ移行期間中の病虫害の発生を抑えることが出来る。

[キーワード] 茶、有機栽培、カンザワハダニ、病虫害防除

[担当部署] 八女分場；茶・中山間地作物チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象項目] 茶

[専門項目] 病虫害

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

「みどりの食料システム戦略」では有機農業の取り組み面積の拡大を目指しているが、移行時にみられる病虫害発生が増加が普及阻害要因となっている。有機栽培の防除体系は他県に先行事例があるものの、八女地域と栽培体系が異なるため、本県独自の体系を構築する必要がある。そこで、有機JASで利用可能な農薬や耕種的防除を用い、一番茶摘採後から有機栽培へ移行する際の防除体系を構築する。

[成果の内容・特徴]

1. 構築した茶の有機栽培移行期間中の病虫害防除体系は、有機JASで利用可能な農薬や整せん枝、すそ刈りなどの耕種的防除を組み合わせたものである（表1）。
2. 構築した防除体系を用いると、カンザワハダニ、炭疽病等の主要な病虫害の発生を慣行防除と同等以下に抑えることが出来る（図1、一部データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 構築した防除体系は有機栽培茶の防除暦を作成する際に活用できる。
2. 平坦地隔離茶園（品種：「やぶきた」）において、一番茶摘採後に中切り更新とすそ刈りを行い、有機栽培を開始した成果である。隔離されていない茶園や中切り更新・すそ刈りを実施しない場合は病虫害被害が増加する可能性があるため、発生状況を十分に確認し、発生に応じて有機JASで利用可能な農薬や耕種的防除を組み合わせる。
3. 年により、病虫害の発生時期・状況は変わるため、防除が必要な場合は有機JASで利用可能な農薬を用いる。
4. 有機JAS認証を取得する場合は、有機JAS規格に定められた肥料、農薬を用いて、管理を行う必要がある。

[具体的データ]

表 1 有機栽培へ移行期間中の防除体系

時期	作業	病虫害名	耕種的防除	農薬名
4月上旬		ハダニ類		ミルベノック乳剤
4月下旬	一番茶摘採			
5月中旬		もち病		Zボルドー
6月上旬	二番茶摘採			
6月中旬		チャノミドリ ヒメヨコバイ	浅刈り・すそ刈り	
		新梢枯死症		
7月下旬		炭そ病		ムッシュボルドー
8月上旬		チャノミドリ ヒメヨコバイ	整枝・すそ刈り	
		炭そ病		
		ハマキ類		
8月下旬		炭そ病		ムッシュボルドー
		ハマキ類		スピノエースフロアブル
		ハダニ類		アタックオイル
9月下旬	粗切り			
		炭そ病		ムッシュボルドー
10月中旬	本整枝			
		ハダニ類		アタックオイル

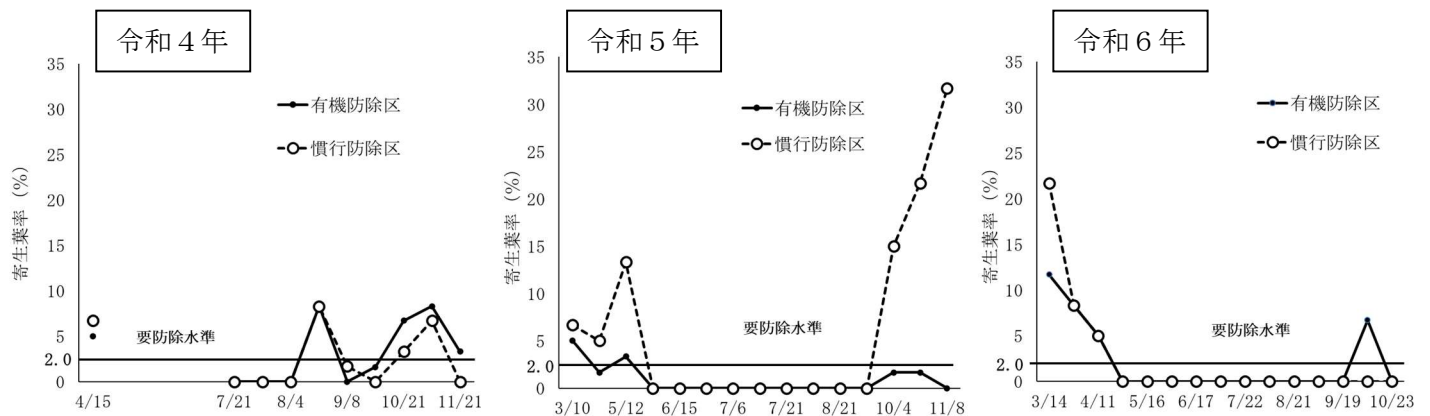


図 1 有機栽培へ移行期間中のカンザワハダニ発生推移（令和 4～6 年）

[その他]

研究課題名： 八女地域の有機栽培に対応可能な病虫害防除体系の開発

予算区分： 経常

研究期間： 令和 6 年度（令和 4～6 年度）

研究担当者： 末次雄哉、手柴真弓、妹川知史